



ここから読む

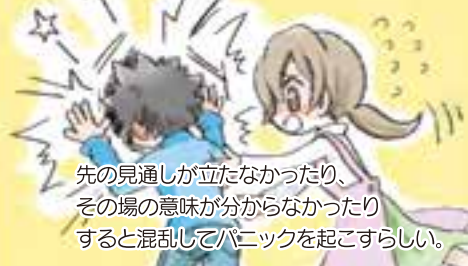
田辺圭太さん(仮称)と岡本健斗(仮称)さんは、旧府立金剛コロニーの知的障害者更生施設に入所していた。



田辺さんは、時々パニックを起こし、壁に額を打ちつける自傷行為を行うなど、激しい「行動障がい」がある。



安全のため職員が複数で制止するのだが、額を壁に何度も強く打ちつけて、ケガをすることもしばしばあった。



岡本さんは、突然大きな発作を起こすことがある。



予期せず倒れてしまうことがあるため、ヘッドギアをしているものの顔面をぶつけることもあり唇などに裂傷ができることがよくあった。



大きな発作が重積して起こることもあり、職員は附属診療所の医師に電話で指示を仰ぎ対応してきた。



お二人とも従来の知的障害者施設の設備や運営体制の中で、職員は適切な支援に苦慮してきた。



利用者の様態に合わせて、施設種別の転換を図り2007(平成19)年重症心身障害児施設「すくよか」が誕生した。



「すくよか」には医師をはじめとする医療専門職が常駐し、職員体制は従来利用者2人に対して職員1人程度だったものが、1対1程度となった。

主に行動障がいのある方のための「きた棟」は、自閉スペクトラム症などの発達障がいのある方に分かりやすい環境づくりをし、日常的に医療ケアを必要とする方のための「みなみ棟」は多くの看護師を配置することで、「医療」と「支援」を併せ持つ施設ができた。

「すくよか」はこれからも利用者に安全、安心な暮らしを提供し続けていく。



※「行動障がい」や「発作」は、その様態に大きな個人差があります。 ※「重症心身障害児施設」は制度の改正により、現在「医療型障害児入所施設」及び「療養介護」となっています。

編集後記

昨年に引き続き、2回目の実施となる実践発表会では、中長期計画の策定に向けて各事業所で行った分析をテーマに動画を作成し、職員全員で共有することとしました。1年目職員など若手を中心にして作成した動画もいくつか見受けられ、動画一つひとつから多くの職員が参画し、活躍している様子、法人の変化が感じられ、法人の未来を想像すると胸が高鳴りました。そんな変化、うねりの一端をこの機関紙「かんナビ」でもお届けすべく、今年も邁進してまいります。

大阪府障害者福祉事業団機関紙

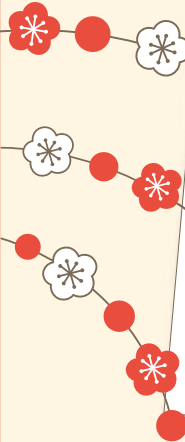
かんナビ

[法人理念]ともに生きる心を育み ともに歩む社会の実現

コロナに打ち勝つ!!

2023年(令和5年)
1月1日発行

vol.174



新年、あけましておめでとうございます。

皆さまには健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

また、日ごろは事業団運営に格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年に引き続き令和元年末に始まった新型コロナウイルス感染症が猛威を奮い、一日の感染者がピーク時には約2万6千人を超えるような状況になり、利用者、ご家族の皆さまには、面会や外出等の制限をお願いし、職員も感染への不安を抱きながら日々の業務に従事されていたと思います。

このような中、多くの利用者や職員の感染が確認されましたが、大きな混乱もなく事業所運営ができたのも、利用者、ご家族の皆さまのご理解とご協力のおかげと感謝しております。また、利用者の安全・安心を守るため日々努力していただいている職員の皆さんにもお礼を申し上げます。事業団といたしましても、一昨年から集団でのワクチン接種を実施してきており、4回目のワクチン接種を昨年の9月27日に完了いたしました。このことは、利用者や職員の安全・安心に貢献できたのではないかと考えております。

今年も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないままスタートしました。一日も早い収束を願っておりますが、感染症だけではなく、地震や台風等の自然災害に加え施設内での事故など、日常生活を脅かすリスクは身の回りに多数存在します。新年にあたりそれらのリスクへの備えは万全か、また適切に対応できるのか、今一度点検することも大切と考えております。

また、令和4年度は、平成29年度に大阪府から完全自主運営に移行して6年目になります。初年度には、赤字の事業所も多数ありましたが、その後の経営状況は順調に推移してきており、令和4年度に事業団の将来を見据えた、中長期計画を策定すると同時に、法人の理念や基本方針等の見直しに着手することといたしました。

令和5年の干支は卯(うさぎ)であり、うさぎはその跳び姿から「飛躍」「向上」を象徴する干支とされていることから、新しいことに挑戦するのに最適な年といわれており、事業団にとっても今年1年がそのような年になればと考えております。

最後になりますが、今後も厳しい状況が続くと思われますが、役職員一同気を引き締め感染対策に細心の注意を払いながら、日々の業務に取組んでまいり所存でございますので、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年のごあいさついたします。

理事長 飯田 哲司



社会福祉法人

大阪府障害者福祉事業団

SFJ事業団 〒584-0054 大阪府富田林市大字甘南備216番地

【法人事務局】

TEL 0721-34-2180

FAX 0721-34-2121

ホームページアドレス

<https://www.sfj-osaka.net>



大阪府立施設の移転

当法人が大阪府の指定管理者として運営している福祉型障がい児入所施設「大阪府立こころ福祉センターしいのき寮・すぎのき寮」は開所した昭和45年から今に至るまで様々な理由で家庭や地域で生活を送ることが難しくなった子どもたちを受け入れ支援してきました。

開所から50年以上が経過し、建物の老朽化が進むとともに、設置基準は当時の基準に基づき建てられた施設であることから、子どもたちにとっては、自分1人だけになれる場所が少なく、生活環境が必ずしも十分とはいえません。

そのようなしいのき寮・すぎのき寮ですが、現在こころ福祉センター内にて令和5年4月の開所に向けた建て替え工事が進んでいます。

新たな施設『大阪府立こころ福祉センターさわやか(仮称)』の定員は65人で、子どもたちの生活単位はこれまでよりも小規模な8人～16人で構成される5つのユニットとなっております。

ユニット内は、子どもたち一人ずつの個室はもちろん、これまで複数で利用していたお風呂やトイレも個室タイプのものが用意され、できるだけ家庭的な雰囲気の中で細やかな支援ができるような工夫もなされています。

そんな新しい支援環境を活かし、どのように子どもたちの生活を支えていくのか、現在の生活を支える職員にとっては大きなチャレンジが待ち構えています。

既存の支援観のみにとらわれることなく、支援者がつながりをもって、施設での生活が子どもたちの“過去”と“未来”の“むすび目”の役割となることを目指し、目前に迫った開所に向けてさわやかに準備を進めています。



#春からSFJ

来春の入職を前に内定者懇親会を開催。

「同期の繋がり」と「チームで課題に挑戦する」をテーマにリアル脱出ゲーム「追憶のハロウィンからの脱出」に参加しました。



多くの参加者が「はじめて！」から始まった懇親会。6人1組、5つのチームに分かれ、謎を解いていくにつれ、お互いの緊張もとけていく様子が印象的でした。

ゲームクリアに求められるのは、記憶した「正解」を引き出すことではありません。「ひらめき力」「注意力」「分析力」「推理力」「持久力」—そして何より、チーム内での「コミュニケーション能力」です。

難題に対し、チームでどれだけ多くの考え方やアプローチを思いつけるか。「可能性を探る力」は、これから利用者支援を行っていくうえで、最も重要なことのひとつではないでしょうか。

参加者からは「楽しかった」「同期と仲良くなれた」「もっと一緒に謎を解きたかった」等の感想をいただき、同期の繋がりもより一層強くなったのを感じました。



職員紹介 #2 - 番外編 -

茨木市立障害福祉センター
ハートフル

長澤 一美(バルーンアート)



第2回目の今回は保育園や幼稚園等を訪問しバルーンアートの魅力を伝えられている長澤一美さんです。

5年前から知人に弟子入りし、様々な作品を制作されてきました。訪問先では子供達に作品を作ってあげたり、一緒に作ったりといった活動をされていますが、その時に見せてくれる笑顔が嬉しくて今まで続けてこられたそうです。

訪問活動以外でも師匠のサポート役としてショーのお手伝いをされています。『いつか自分自身で披露ができたら』と夢を語ってくれました。月に一度(最終日曜10:00～12:00)、高槻駅前にて講習会も開催されているようですので興味ある方はお立ち寄り下さい。また、訪問をご希望の場合もお気軽にお問い合わせください。(072-620-9818)



第1期事業団中長期計画の策定について

平成29年の社会福祉法改正では、「地域共生社会」の実現が掲げられ、事業団としても、地域に根差した法人として、利用者やその家族及び地域社会からの信頼に応え続けていくために、健全で安定的な経営を確立していくことが求められています。

このような法人経営を実践するためには、中長期計画を策定することが大変重要となります。

今回の中長期計画策定にあたっては多くの職員が計画策定に参画し、共通理解を図りながら推進していくことが大変重要と考えております。そのため、法人幹部に加え、エリアを代表する職員をメンバーとした中長期計画策定会議を立ち上げ、計画をとりまとめました。

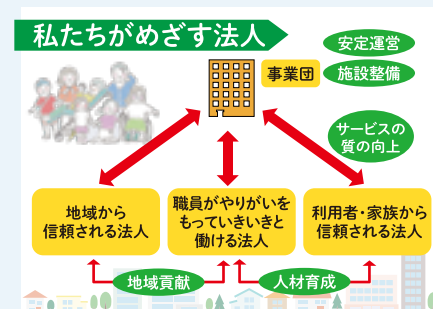
各事業所の中長期計画策定にあたっては、所在する地域の実情が異なるため、各事業所が主体となって、現状と課題を分析し目指すべき方向を提案するかたちをとりました。

また、中長期計画策定に向けて行った「事業所分析」を今年度の実践発表会のテーマとすることで、所属長から若手職員まで職員一人ひとりが中長期計画を実行する当事者であるという意識の醸成をねらいました。

法人全体の計画は、法人経営・利用者支援・人材育成・地域貢献を4つの柱として重点課題を導き出し、現在最終的な詰め作業を行っております。

安定的な経営を行い、事業を継続していくことを基本としつつ、利用者・家族から信頼される法人、職員がやりがいをもっていきいきと働ける法人、地域から信頼される法人になることが私たちの目指している法人のあり方であり、中長期計画がその柱となります。

中長期計画は策定して終わりではありません。この計画をいかに実行性のあるものにしていくかが大変重要です。今後は、法人事務局・各事業所が目標や「めざすべき将来像」に向かって、全職員が一丸となって計画達成のために取り組んでまいりたいと思っております。



イベント情報

茨木市

障害福祉センターハートフル

イベント名 ハートフル作品展・アールブリュット展

日程 ①1月26日(木)～1月31日(火)
10:00～19:00(最終日は17:00)

場所 茨木市立ギャラリー
茨木市永代町1番5号
阪急「茨木市駅」駅舎2階 ロザヴィア内

問い合わせ 072-620-9818 担当 山本まで

日程 ②2月1日(水)～2月7日(火)
9:00～17:00(最終日は15:00)

場所 障害福祉センターハートフル1階ロビー
茨木市片桐町4番26号

採用情報

採用 HP / SNS

〔採用HP〕
職員募集の案内のほか、
オンライン説明会・サロン等の
採用に関する情報はコチラ！

<https://www.sfj-osaka.net/saiyou/>



〔採用SNS〕
採用に関する情報を
リアルタイムで発信！
ご登録をお願いします。

twitter 採用アカウント



@sfj_recruit

LINE 公式アカウント



@565nximz

